

NEARセンター市民研究員について

1 市民研究員制度とは！

本学の北東アジア地域研究センター（NEARセンター。以下「センター」）の研究活動に広く一般市民の参加を求め、地域の研究者や有識者との連携を強化することにより、センターの研究活動の活性化を図りたいと考えます。このため、昨年度から、市民研究員制度をスタートさせました。

2 市民研究員の応募資格は！

市民研究員には、「北東アジア地域の総合的研究、本学の学術研究活動の発展に貢献する意欲」のある方をお願いしたいと考えています。

3 市民研究員は何をするか！

センターでは、日本を含む北東アジア地域に関する研究を行い、様々な成果を挙げてきました。

このセンターに所属して、研究会等の参画を通じて自ら研究活動に取り組んでいただくとともに、センターや大学、本学院生の研究に刺激を与えていただきます。

更に、研究によっては、院生との共同研究に取り組んでいただきます。

4 市民研究員の特典

(1) 市民研究員定例研究会の開催

別添1「市民研究員定例研究会の開催について」をご参照ください。

(2) 市民研究員情報交換サロンの開催

場所：センター内「NEARセンター長室」（予定）

日時：市民研究員定例研究会終了後の1～2時間程度

内容：教員や院生等との情報交換、気軽な話し合いの場として

(3) センター各研究会等のご案内

センターの主催する各種研究会（北東アジア研究懇談会、北東アジア研究会、日韓・日朝交流史研究会、超域アジア研究会など）、国際シンポジウム等のご案内

(4) センター図書・資料室の利用

約1万冊の北東アジア地域研究に資する図書・資料、約100種の北東アジア地域で刊行されている雑誌を蔵する「NEARセンター図書・資料室」を利用することができます（月～金曜日 9:00～17:00）。

(5) メディアセンターの利用

図書約7万冊、雑誌250種類以上、新聞、視聴覚資料などをそろえた「島

根県立大学メディアセンター(図書館)」を利用することができます(詳しい利用案内は、<http://www.u-shimane.ac.jp/15mediacenter/11hamada/index.html> をご参照ください)。

(6) 学報等刊行物の提供

『学報』、『NEAR News』（センター・ニューズレター）、その他刊行物の提供。

(7) 市民研究員ワーキングペーパーの作成

市民研究員制度の活動実績、市民研究員・院生・教員個々の研究成果をまとめた「ワーキングペーパー」を作成する予定にしております。掲載にあたっては、審査をさせていただきますが、是非とも皆様の独創的な研究成果をお寄せくださるよう期待しております。

5 大学院生との共同研究

別添2「大学院生との共同研究について」をご参照ください。

6 謝金、旅費等の支給について

「定例研究会」や「情報交換サロン」など通常の活動については、旅費、謝金などは支給しません。是非、自主的な参画をお願いします。

なお、上記5の院生との「共同研究」を行う場合については、その活動費（旅費や文献購入費など）に対して予算の範囲で助成します。

7 市民研究員登録への手続き

(1) お手数ですが正式な申込として、別添申込書を6月1日（金）までに下記の送付先まで提出ください。

※送付先：〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
島根県立大学事務局研究企画課

(2) 今回の任期は、平成20年3月31日までとします。

なお、市民研究員は更新が可能です。

別添 1

市民研究員定例研究会の開催について

「市民研究員定例研究会」は、NEARセンター市民研究員制度の研究母体であり、NEARセンター市民研究員、NEARセンター研究員（教員）、大学院生で構成された研究組織です。その内容は、外部講師を招請して行う講演会、市民研究員各人による研究報告会、市民研究員－大学院生による共同研究報告会などです。昨年度は、下のような日程、内容で開催されました。

なお、今年度も5回の開催を予定しています。

2006年度 市民研究員定例研究会の活動概要

日時	内容
2006.10.7(土) 13:30～18:30	市民とつくる「北東アジア研究交流懇談の集い」 制度の概要説明等
2006.11.3(金) 10:30～12:00	第1回定例研究会 制度・運営及び共同研究の概要説明、市民研究員、大学院生、教員の自己紹介等
2006.12.23(土) 13:30～17:00 18:00～	第2回定例研究会 第一部：ゲスト招請講演会 ①藤井賢二先生「戦後日韓漁業問題再考－李承晩ラインを中心に」 ②金興翼先生「韓国の対北朝鮮政策について」 第二部：納会
2007.1.13(土) 10:00～12:00	第3回定例研究会 大学院生・市民研究員有志の研究報告会 ①浅野史明（博士前期課程1年） 「現代ウラジオストクにおける住民の変容と『連続性』」 ②岡崎秀紀（市民研究員） 「チベット探検先駆者・能海寛の業績について」 ③三好礼子（市民研究員） 「残留孤児の現状とその問題点」
2007.1.27(土) 15:00～17:00	第4回定例研究会 ゲスト招請講演会 ①李廷江先生「転換期における日中関係の課題と思想－世界史の視点からの模索」
2007.3.10(土) 15:00～17:00	第5回定例研究会 「共同研究」成果発表会 ①呉相美（博士前期課程1年）・森須和男（市民研究員） 「近世石見と慶尚道との漂流・漂着民についての研究」 ②趙曉紅（博士後期課程2年）・三好礼子（市民研究員） 「満蒙開拓移民をめぐる医療衛生問題の研究」 ③郭山庄（博士後期課程2年）・大橋美津子（市民研究員） 「日本の環境外交、特に対中環境協力政策についての研究」

別添 2

大学院生との共同研究について

大学院生との共同研究とは、本学大学院北東アジア研究科（博士前期課程、博士後期課程）院生が、NEARセンター市民研究員の方々及び教員との研究チームを作り、普段の大学院教育では得難い北東アジア地域に対する「市民の目・興味」に触れ、市民研究員とともに近隣の北東アジア地域調査に出かけ、また関連の研究を行っている研究者との研究会を開くなどを通じて、新鮮な知的刺激を受けて研究者として成長してもらおうという取り組みです。

昨年度は、下のような5つの研究チーム、研究課題が採択され、研究助成を受けて研究が進められています。なお、今年度は春学期1件、秋学期1件の合計2件の研究課題が採択される予定です。

2006年度 共同研究採択一覧

研究チーム	研究課題	助成金額
<ul style="list-style-type: none"> ・ 呉相美（博士前期課程1年） ・ 森須和男（市民研究員） ・ 井上厚史教授 	「近世石見と慶尚道との漂流・漂着民についての研究」	50万円
<ul style="list-style-type: none"> ・ 趙曉紅（博士後期課程2年） ・ 三好礼子（市民研究員） ・ 貴志俊彦教授 	「満蒙開拓移民をめぐる医療衛生問題の研究—広島県開拓移民を事例として」	50万円
<ul style="list-style-type: none"> ・ 郭山庄（博士後期課程2年） ・ 大橋美津子／エバン＝チェイス（市民研究員） ・ 李曉東准教授 	「日本の環境外交 特に対中環境協力政策についての研究」	50万円
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金貞香（博士前期課程1年） ・ 佐々木利枝子（市民研究員） ・ 井上厚史教授 	「浅川巧の朝鮮芸術論や朝鮮認識の再考」	50万円
<ul style="list-style-type: none"> ・ 張紹鐸（博士後期課程4年） ・ 湯屋口初實（市民研究員） ・ 別枝行夫教授 	「アメリカと台湾問題（1961-1971年）」	50万円